

平成 22 年 4 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18530245
 研究課題名（和文）グローバル化下の経済発展と金融制度に関する政治経済学的分析
 研究課題名（英文）A Political Economy of Economic Development and Financial Institutions under Globalization

研究代表者

藪下 史郎（YABUSHITA SHIRO）
 早稲田大学・政治経済学術院・教授
 研究者番号：30083330

研究成果の概要（和文）：本研究では、市場の不完全性と情報の非対称性に注目し、「経済発展と金融制度との関連」を理論的かつ歴史的に分析した。特に、急速にグローバル化する金融経済は、先進国のみならず途上国経済に大きな影響を与えているが、本研究ではグローバル化下の金融制度ならびに国際間の相互依存関係や政策協調の問題を理論的に考察した。より具体的には、途上国にみられるインフォーマルな金融制度、グローバル化の政治経済的意義、金融制度の不安定性と世界的金融危機、等に関する論文・著書を著した。

研究成果の概要（英文）：In this research program, I have done some theoretical and historical analyses of the role of financial institution in economic development from the viewpoint of imperfect market and asymmetric information. Financial economies, which have been rapidly globalized in the past decades, have affected real-sector economies for all countries including developing countries as well as advanced countries. This research examined financial systems, economic and political interdependence among nations, and international policy coordination. That is, I wrote some articles and books on informal financial institution in developing countries, political and economic implications of globalization, unstable financial systems and global financial crises, and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	700,000	0	700,000
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,600,000	570,000	3,170,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学、財政学・金融論 3606

キーワード：経済発展、グローバル化、非対称情報、世界的金融危機、金融制度の不安定性、インフォーマルな金融制度、証券化、社会的資本

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究を開始するまでに、情報・市場の不完全性の視点から本課題と密接に関連した問題を研究してきた。すなわち、以下に示す過去の科学研究費補助研究の延長線上に本研究はあり、これまでの研究を進展させようとするものであった。

昭和金融恐慌における銀行取り付けに関する理論的・実証的分析。

日本の金融システムの安定性に関する歴史的・理論的分析。

バブル経済の影響と金融システム：理論と実証。

貨幣金融制度と経済発展：理論的分析および明治初期の日本と19世紀米国との比較分析。

中小企業、経済発展と金融制度。

これらの研究では、新古典派経済学とは異なるアプローチによって貨幣金融制度に関する諸問題を分析してきた。

(2) また本研究を開始するとき、早稲田大学21世紀COEプログラム『開かれた政治経済制度の構築』において拠点リーダーとして、経済学と政治学の融合によって政治と経済が複雑に絡み合ったグローバル化する社会の諸現象や問題を解明しようとする研究プロジェクトに参加していた。このことは、本研究における「グローバル化の政治経済的意義」を考察する上で大いに役立つものであった。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的の一つ市場や情報の不完全性の観点から「経済発展と金融制度」に関する問題を理論的かつ歴史的に分析することである。途上国経済は、金融市場のみならず多くの市場において情報が不完全であり、また所有権が未確立であるなど、市場メカニズムが円滑に機能するような条件が満たされていない。そうした途上国経済においては、完全競争的なフォーマルな市場に代わる金融制度、すなわちインフォーマルな金融制度が存在しているが、それが資金配分にどのような影響をもたらすか、また経済発展とどのように関係するかを検討する。

(2) 本研究のもう一つの目的は、経済発展や金融制度にかかわる問題をグローバル化の観点から政治経済学的アプローチを用いて分析することである。新古典派経済学においては政治制度について言及することはないが、現実の経済活動は政治制度によって大きな影響を受け、経済制度と政治制度は密接に関連し相互に影響を与えあっている。特に、急速にグローバル化する世界においては政治面かつ経済面で先進国間の

みならず先進国と途上国間の相互依存関係が強まっている。こうした国際的な政治経済的諸現象を情報の不完全性とグローバル化の過程から考察することを目指している。

3. 研究の方法

本研究は4年間継続して行ってきたが、その間「経済発展と金融制度」と「グローバル化と政治経済制度」の問題を相互に関連付けながら並行して進めた。研究を推進する上で以下のような点に注意した。

(1) 2007年度までは、早稲田大学21世紀COEプログラム『開かれた政治経済制度の構築』で拠点リーダーとして行ってきた研究活動と絡めて、本研究を推進した。

(2) 2008年度以降は、早稲田大学日米研究機構で機構長として参加した研究活動を本研究と絡めて推し進めてきた。

(3) 本研究期間を通じた大学院生・研究生との共同研究を継続することによって、インフォーマルな金融制度(すなわちグループ貸付、ROSCAなど)に関する研究を進展させてきた。

(4) これらの研究成果を研究会やコンファレンスなどで発表するとともに、論文としてまとめ研究叢書また専門書として刊行するという形で、研究を行ってきた。

4. 研究成果

本研究で「経済発展と金融制度」と「グローバル化と政治経済制度」に関して行ってきた成果は、以下のように大きく三つにまとめることができる。

(1) 研究代表者が本研究プロジェクトを開始する前から継続的に行ってきた研究は、不完全市場および非対称情報下での金融市場と政治経済制度に関してであり、これらの研究成果は2009年に刊行した『金融論』に大きく反映されている。またそこでは2008年後半からの世界的な金融危機と大不況についても考察し、その原因と発生メカニズムにも言及している。金融危機が証券化とグローバル化という現象と深く関連していることを指摘しているが、この問題については今後の研究において理論的かつ歴史的により詳細に分析する予定である。

(2) 「経済発展と金融制度」との関連では、インフォーマルな金融制度の役割を不完全市場また不完全情報の視点から理論的かつ歴史的な分析を行ってきた。これらの研究は以下のように大学院生・研究生と共同で行っ

てきた。

その一つは和島隆典氏との一連の共同論文としてまとめている。それらは、ROSCAの経済的意義の理論的考察、歴史的分析、さらに ROSCA を社会的資本という制度的要因と関連させた理論的分析である。これらの分析は、ポスト・ケインジアン研究会(2007年3月)や、香港城市大学での CityU-Waseda Joint Conference, Research in Global Economic and Financial Issues: Theory, Empirics and Experimental Methods で発表するとともに、論文としてまとめた研究叢書の一部を収録してきた。

松田慎一氏との共同研究「グループ貸付」においては、Stiglitz モデルを拡張することによってマイクロクレジット市場での資金配分の問題を考察した。それらは、Waseda 21 COE-GLOPE Discussion Paper としてまとめるとともに、一部を研究叢書として収録した。

(3)「グローバリゼーションと政治経済制度」に関する研究は、早稲田大学 21 世紀 COE プロジェクトの拠点リーダーとして、また早稲田大学日米研究機構長としての活動と以下のように関連している。

前者としては「地域統合」に関するコンファレンスの発表論文としてまとめて研究叢書として刊行する作業を行った。また Alan Krueger の著書が提示する「テロリズム」に関する研究が、政治経済的制度かつ心理的要因を重視したものであるため、COE の研究課題と深く関連しているとの関連から翻訳したが、著者と意見交換を行った。そこで提示された分析内容について GCOE 主催のコンファレンス(2009年1月)において報告を行った。

また日米研究機構長としては、「グローバリゼーションと世界的金融危機」の問題を日本・米国・中国の視点から考察するための国際シンポジウム(2009年6月)を企画し、その成果を単行本として刊行した。そこではグローバル化する世界においては、資源・エネルギー市場が農産物や金融市場と複雑に絡み合っていること、またさまざまな金融商品の証券化が情報の非対称性の問題をより深刻化させている。このことが世界的な金融危機と大不況を引き起こし、世界各国に伝播させた、大きな要因になっていることを指摘しているが、これらの関連については将来の研究においてさらに考察を続ける

予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

藪下史郎「グローバル社会における政治経済と相互依存関係」、藪下史郎監修、秋葉弘哉、弦間正彦、吉野孝編『世界政治経済と日本・米国・中国：グローバル危機と国際協調』、173-187頁、東洋経済新報社、2010年3月、査読無し

藪下史郎・和島隆典「頼母子講から無尽会社へ - 理論と歴史 - 」、清野一治編著『金融・通貨制度の経済学』早稲田大学現代政治経済研究叢書30、3-32頁、早稲田大学出版部、2008年12月、査読無し

藪下史郎・松田慎一「マイクロクレジットとグループ貸付 - Stiglitzモデルの再考 - 」、清野一治編著『金融・通貨制度の経済学』早稲田大学現代政治経済研究叢書30、33-60頁、早稲田大学出版部、2008年12月、査読無し

藪下史郎「グローバリゼーションとは何か、その光と影」、『共済と保険』第50巻第10号、16-22頁、2008年10月、査読無し

藪下史郎「入門経済学から専門課程の経済学へ」石井安憲・永田良・若田部昌澄編著『経済学入門 第2版』、351-365頁、東洋経済新報社、2007年4月、査読無し

藪下史郎「本書の課題と構成」藪下史郎・清水和巳編『地域統合の政治経済学』、1-8頁、東洋経済新報社、2007年3月、査読無し

Yabushita, S. "Waseda 21 COE-GLOPE and the Beijing International Conference", The Waseda Journal of Political Science and Economics, No.363, pp.2-6, April 2006 査読無し

[学会発表](計5件)

藪下史郎「新しい政治経済学の確立に向けて」早稲田大学 GCOE (制度構築の政治経済学) 国際コンファレンス「期待、制度、グローバル社会」、セッション「『テロの経済学』(アラン・クルーガー著)をめぐって価値理念の実証研究」、2009年1月23~24日、早稲田大学

藪下史郎「グローバリゼーションとは何か、その光と影」共済理論研究会、2008年7月1日、日本共済協会・都市センターホール

Yabushita, S. and Wajima, T., "Economic Theories of Roscas: Overview and Discussion", A keynote

paper presented at the 2007 City U-Waseda Joint Conference: Research in Global Economic and Experimental Issues: Theory, Empirics and Experimental Methods, September 20-21, 2007

藪下史郎・和島隆典「ROSCAの経済理論：概観と若干の考察」, ポストケインジアン研究会、2007年3月20日、二松学舎大学

Yabushita, S. "Comment on D. Weinstein Are Japanese Prices Set in China? Inflation, Deflation, and the measurement of Prices in Japan", March 10, 2007, A Conference of Japan's Contemporary Geopolitical Challenges in Honor of the memory of Assakawa Kan'ichi "JAPAN and WORLD", March 9-10, 2007, Yale University

〔図書〕(計6件)

藪下史郎監修、秋葉弘哉、弦間正彦、吉野孝編『世界政治経済と日本・米国・中国: グローバル危機と国際協調』、173-187頁、東洋経済新報社、2010年3月、総197頁

藪下史郎『金融論』、ミネルヴァ書房、2009年10月、総267頁

藪下史郎訳アラン・B・クルーガー著『テロの経済学：人はなぜテロリストになるのか』東洋経済新報社、2008年8月、総258頁

藪下史郎監修川岸令和編『立憲主義の政治経済学』東洋経済新報社、2008年、総243頁

藪下史郎監訳、藤井清美訳『スティグリッツ教授の経済教室：グローバル経済のトピックを読み解く』ダイヤモンド社、2007年、総325頁

藪下史郎・清水和巳編『地域統合の政治経済学』東洋経済新報社、2007年、総246頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藪下 史郎 (YABUSHITA SHIRO)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：30083330